

広葉樹材で炭焼き試行

かつての営みに触れる機会に

前号では、森林整備で得た広葉樹材の活用と、森の健全な循環に

つなげる取り組みとして、炭焼きを試行する背景についてご紹介しました。今回は、その炭焼きを行った様子を報告します。

7月29日、環保協役職員10人と、福富町観光協会など関係者15人が炭焼き釜の購入元の指導により炭焼きを行いました。

まずは、森林整備で得た乾燥した広葉樹材を、鋸で釜に入る長さ

に切断することから始めました。次に、細かく砕いた竹を使って着火し、その後は細い広

葉樹材や竹などの燃えやすい材と、太い広葉樹材などの燃えにくい材を交互に投入しまし

た。また、釜の中に炭が均に行き渡るよう、材の配置を工夫したり

最後に、ジョウロによる注水とホースによる散水で消火し、釜に蓋をして終了しました。できた炭は後日回収し、その品質や活用方法について検討していきます。

なお、炭焼きは地元消防署への届出など必要です。

要な手続きを行ったうえで実施しています。

今回の炭焼きでは、森林整備で得た資源を有効活用するとともに、かつて「かんぼき

の森」で行われていた炭焼きの技術に触れることができました。

今後、試行を重ねながら、森と人とのより良い関係づくりにつなげていきたいと考えています。

その他、「かんぼきの森」の自然歩道が歩きやすくなるように掘削・整地作業にも取り組みました。こちらの活動については、次号の記事で詳しくご紹介する予定です。

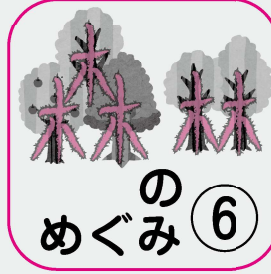
（地域支援課 八島聡美）



できあがった炭

森林浴で心身に良い効果

衝撃吸収 多様化する遊歩道



森林浴は、40年以上前に都会の人々に向けて林野庁が提唱したものです。森林利用の場を提供し、効能を科学的に実証する研究も進められた結果が、森林セラピー事業となり、山村振興にも役立つていま

す。森林内を歩き、時を過ごすこと

が、心身に良い効果をもたらします。例えば、ストレスホルモンの減少、高血圧の改善、副交感神経の活動を高め、免疫機能を上昇させることが実験結果から明らかになりました。

比較する条件については異論もあります。都会のサラリーマンが休暇をとれば、ストレスが減り、血圧も下が

るはず。森林に連れ出

を持った人が配置されているので安心できます。

ウォーキングに関して、森林と他の場所との決定的な違いは地面ではないでしょうか。登山道は舗装されていません。歩行時に地面から受ける衝撃が、舗装路に比べて格段に少ないのです。靴底に反発力を和らげる材料を使ったものがありませんが、衝撃を吸収してしまう土にはかきません。



間伐材とウッドチップを用いた遊歩道

雨でぬかるみになったり、土が流

れるなど、快適な歩道の維持には手間がかかります。透水性の舗装を歩進めて、ウッドチップを敷きつめた道が増えています。自然の道以上に快適です。

このシリーズおわり。（森林植物研究家 埴田宏）



「第3次気候変動影響評価報告書」公表

気候変動によるリスクの備え必要



本年2月に環境省が、気候変動影響の総合的な評価についての報告書である「第3次気候変動影響評価報告書」を公表しました。この報告書は、主要7分野(農業・林業・水産業、水環境・水資源、自然生態系、自然災害・沿岸域、健康、産業・経済活動、国民生活・都市生活)を対象として、気候変動の影響を重大性、緊急性、確信度の3つの視点から評価しています。

影響評価の結果、多くの項目に重大な影響があるとされ、今回から、その中で特に優先的に対応が必要な項目が整理されました。例えば、農業分野ではコメの収量・品質の低下、自然災害分野では洪水の発生地点数の増加、健康分野では熱中症による救急搬送者数・死亡者数の増加などが挙げられています。

今後の気候変化と影響は、

我々の社会が講じる気候変動対策によって大きく変わることが示されています。十分な対策を講じるか否かで、猛暑日や熱中症患者数の増加、災害の発生頻度や被害などに大きな差が生じ得ます。

現在、本報告書などを踏まえ、国の気候変動適応計画の見直しが進められていますが、個人においても、気候変動に伴い増加するリスクへの備えや対策がますます必要になっています。

本報告書は、「概要版」「総説」「詳細」の3つがありますが、「概要版」は気候変動影響について全体像を把握できるよう簡潔にまとめられており、一般の方々にも気候変動を知るきっかけとしてお読みいただける内容です。効果的かつ効率的な気候変動対策を取るための基礎情報として、ぜひご覧ください。

(ひろしま気候変動適応センター)

気候変動影響評価結果一覧(抜粋)

大項目	小項目	重大性(確信度)			緊急性(確信度)
		現状(約1℃上昇)	1.5~2℃上昇時	3~4℃上昇時	
健康	死亡リスク	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)
	熱中症	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)
	疾病発生・悪化、死因別死亡リスク	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)
感染症	水系・食品媒介性感染症	レベル1 (**)	レベル1 (**)	レベル1 (**)	レベル1 (**)
	節足動物媒介感染症	レベル2 (**)	レベル3 (***)	レベル3 (***)	レベル3 (***)
	その他の感染症	レベル1 (**)	レベル1 (**)	レベル1 (**)	レベル1 (**)
その他	温暖化と大気汚染の複合影響	レベル2 (**)	レベル2 (**)	レベル2 (**)	レベル3 (**)
	メンタルヘルスへの影響	レベル3 (**)	レベル3 (**)	レベル3 (**)	レベル3 (**)
	自然災害に起因する健康影響	レベル3 (***)	レベル3 (**)	レベル3 (**)	レベル3 (***)
	冬季の健康影響	レベル1 (**)	レベル1 (**)	レベル1 (**)	レベル1 (**)
	その他の健康影響	レベル2 (**)	レベル2 (**)	レベル2 (**)	レベル3 (**)

レベルの数字と*の数が多いほど重大性、確信度が高い(最大3)。

出典:第3次気候変動影響評価報告書(概要資料)